

タイトル きみとのなつ。—音羽美和—

スタンス

リスナーは高校三年生男子。演じていただくのは今回も2歳年下の後輩、音羽美和です。前作収録の「きみとのはる。」と「きみとのふゆ。」の間のお話。

夏休みを目前にした美和は、受験勉強で忙しい先輩と遊べないこと、毎日会えないことに恨み言を言います。どこか悪い気持ちもありつつ、受験が最優先の先輩としては、相手をあげるわけにもいかず。

ですが、二人の夏休みはそれだけでは終わりません。

先輩の邪魔はしたくない、でも先輩と思い出を作りたい美和の悪あがきは、ほんの少しだけ功を奏します。

それを無碍に突っぱねるほど、先輩は美和のことを悪くは思っていないのですから。

■音羽美和（おとばみわ）

年齢・15歳（入学式時）／16歳（卒業式時）

誕生日・2月16日

身長・151cm（入学式時）／152cm（卒業式時）

体重・44kg（入学式時）／46kg（卒業式時）

スリーサイズ・79-59-82 B(65)（入学式時）

83-59-83 D(65)（卒業式時）

髪型・ショートボブ

性格 明るく滌刺。基本的にいつも元気。先輩とは付き合いが長いため、敬語だが

軽口で、常にからかうような態度で接する。先輩への行為は隠さず積極的だが前述のノリもあり、お互いふざけているようなニュアンスが抜けない。すぐに先輩に抱きついたり、挑発するような態度を取るが、本当に尻軽なわけではなく、根は真面目。成績は悪くもないが良くもない。

備考 中学時代は先輩と同じく陸上部に所属していた。現在は帰宅部。

石橋茜は中学時代の同級生かつ、同じ陸上部。

走り高跳びを専攻しており、とびきりの美人だった。

高校が別になった今でも親交があり、彼女の胸が急激に成長したことについて嫉妬と希望を見出している。

※『指示』はマイク正面に対する立ち位置になります。

次の指示があるまでは、同じ位置のまま継続になります。

- ・正面 マイク正面に対して向き合って立ちます。
- ・横 マイクの左右いずれかに立ちます。
- ・後ろ マイクの後ろに立ちます。

※『顔』はマイクとの顔、身体の距離になります。

次の指示があるまでは、同じ距離にまま継続になります。

- ・前方 「横」位置で、マイク正面と同じ方向を見ている状態です。
- ・マイク マイクと向き合った状態です。
- ・近づいて マイクに顔を近づけてください。
- ・オンマイク マイクになるべく近づきます。基本小声、囁きになります。
- ・少し離れて 上半身を反らせて、マイクから離れてください。
- ・離れて マイクから離れて立ってください。
- ・十分離れて マイクから一番離れた状態です。

※外口ケの場合は、移動しながら喋つてもらうこともあります、部屋口ケの場合は前回同様、動いてから喋つてください。(当日ディレクター確認)

※実際の会話のテンポを意識して、相手の反応を感じながら十分間を取つて演技をしてください。商業作品より間延びしてしまっても大丈夫です。

※マイクとの距離のついて、指示にない横向き、うつむきなど、演技をしていただいて結構です。自然な雰囲気を抑えたいので、逆に指示に縛られすぎないよう、ある程度楽にしていただいて大丈夫。

※※※以下、最終ページまで、実際の収録内容とは異なる場合があります。※※※

■終業式の帰り道、公園にて

(美和と先輩、ベンチに腰掛けている想定)

(位置..横)

(顔..前方)

美和 はあ……

先輩 (さつきからそればつかじやん)

美和 だつてえ……

先輩 (夏休みで凹むやつ、珍しいぞ)

(顔..マイク)

美和 先輩、なんで私が凹んでるか、もしかしてお分かりでない?

先輩 (なんだよその口調)

美和 質問にお答えいただけますか?

先輩 (だいたい想像つくけど)

美和 じゃあ言つてください、どうぞ。

先輩 (言つたら負けな気がしている)

美和 負けってなんですか、私の日々の献身を何だと思ってるんですか!?

先輩 (強要の間違いだろ……)

美和 あー、やっと美和から開放されるわー、せいせいするわーとか、

そういうことですか?

先輩 (そこまでは言わんけど)

(顔..前方)

美和 否定はしないと、へー。

結局私は、先輩にとつて都合のいい女なわけですね！

先輩 (言い方よ……)

美和 あーーー先輩と毎日会う口実がなくなるーー！ 早く始業しろーー！

先輩 (終業したばかりな件について。

てか、一年の夏休みなんて、遊び放題だろ。うらやましいわ)

(顔..マイク)

美和 いいんですか？ 私が同級生と遊び呆けて、ひと夏の過ちを犯して、夏休みデビューしちゃつたら！

先輩 (んーーー……)

美和 めっちゃ真面目に悩むじゃないですか。今の気持ちをどうぞ。

先輩 (なんかやだな)

美和 私のこといつも適当にするくせに、いざ取られそうになるとムカつく。

それはもう私が好きだつてことですよ、告白していいですよ？

先輩 (すげえ力技の誘導尋問だなーー！)

美和 まあツンデレの先輩に免じて、同級生男子と爛れた交際をするのは我慢してあげます。

先輩 (言い方……)

(顔..前方)

美和 はーあ、何しよっかなー夏休み。

先輩 (どつかいかないのか?)

美和 約束くらいありますけど? でもさすがに毎日はないですよ。

先輩 (そりやそろか)

美和 先輩はどうせ遊んでくれないだろうし。

先輩 (そうだなー)

美和 当然のように肯定しますね。ま、受験生に夏休みはないかー。

先輩 (ないなー)

美和 息抜きも?

先輩 (ないなー)

美和 ほんとストイック星人ですね。

先輩 (いつから宇宙人になつたんだよ)

美和 頑張りすぎると死にますよ?

先輩 (何の病気だよ)

美和 普通に心配してあげたのに。

先輩 (そりやどーも)

美和 …

先輩 (何か言いたげですな)

(顔..マイク)

美和 ほんとに一瞬も息抜きしない気ですか?

先輩

(瞬レベルではするけどさ、さすがに。)

美和

遊びに行つたりする気はないと。

先輩

(ないな)

美和

ストイック大明神ですね

先輩

(おお、俺、神だったのか)

(顔..前方)

美和

はーーーーーつまんない男だなーーーーー

先輩

(そこまでディスるか!?:)

(顔..近づいて)

美和 こんなに可愛い後輩の誘惑にミリも反応しないとか、本当に思春期ですか？
ついてます？ 家に忘れてきました？

先輩

(ついとるわアホ)

美和

アホっていうほうがアホなんですーーー！

先輩

(.....)

(顔..前方)

美和

はあ。

先輩

(.....なんか飲むか)

(先輩、立ち上がる)

(位置..正面)

(顔..マイク)

美和 飲む！！

先輩 (現金だなーーー。何がいい?)

美和 夏っぽいやつ!

先輩 (サイダー?)

美和 ……あ。ラムネ!

先輩 (はあ? 自販にないじやん!)

美和 カドヤまでダツシユですぐでしょ! ほら、ダツシユダツシユ!

先輩 (はあ……待つてろよ)

(位置…後ろ)

(顔…十分離れて)

美和 やさしー! さすが先輩! いつてらっしゃーい!

■ラムネ勝負

(ラムネを買ってきた先輩、座っている美和と向き合って立っている)

(位置..正面)

(顔..マイク)

先輩 (ほらよ)

(音..ラムネを揺らした音)

美和 ありがとうございます！ ふー！ つめたーーい！

先輩 (ラムネとか久しぶりだな)

美和 中学の時、よく部活の帰りに飲みましたよね！

先輩 (いつも奢らされてた苦い記憶なんだが？)

美和 先輩、これ振ってないでしようね？

先輩 (そこまでガキじやねーよ)

美和 え、私のブラウス濡らすチャンスだったのに？

先輩 (お前の中の俺って、どんだけアニメ脳なんだよ)
(先輩、ベンチに座る)

(位置..横)

(顔..マイク)

美和 ラッキースケベは男の子の夢なんですね？

先輩 (どこ情報だよそれ)

美和 あ、先輩ストップ！ まだ開けないで！

先輩 (振ってるかもしれないから交換しろってか？)

美和 ううん、勝負しませんか？

先輩 (……なんの?)

美和 一気飲み！ 私が勝つたら、一日だけ私と勉強会！

先輩 (ほう)

美和 どうですか？

先輩 (お前にしては随分控えめな提案だな)

美和 さすがにそれくらいは空気読めます、受験勉強の邪魔したいわけじゃないし。

先輩 (いいよ、乗ってやる)

美和 やつたーーー！ あ、先輩、ちなみにほんとに振つてない？

今ならラッキースケベ狙つてましたって言つても許しますよ？

先輩 (狙つてねえ！)

美和 なんだー。

先輩 (なんで残念そうなんだよ)

美和 じゃあとりあえず、セーので空けましょう。

万が一ぶしゅーって言つたら、同じ量にしてからスタートで！

先輩 (めっちゃ警戒するな……)

美和 あくまで平等な条件にするためですよ、はい！ 空けて！

(音：ラムネを開ける音)

先輩 (……開いたぞ)

美和 ……ほんとに振つてなかつたんですね。

先輩 (どこまで疑うんだよ！—)

美和 はいはい、とりあえずこれで平等ってことで、乾杯しましよう！

先輩 (なんでだよ)

美和 いいじゃないですかー、はい、かんぱーい！

先輩 (かんぱーい)

(音：ラムネ瓶をぶつけ合う音)

美和 はい、じゃあいきますよ？

3. 2. 1で！ 先輩カウントしていいですよ。

先輩 (いいのか？)

美和 はい、ハンデあげます。

先輩 (いくぞ、3, 2, 1！)

(音：ラムネを飲む音)

美和 ……ふはーーー！ 勝つた！！！

先輩 (はあ！？ 早くね！？)

美和 むしろ先輩、勝つ氣ありましたー？ 中学時代、私に一回も勝つたことなかったですよね？

先輩 (前より早くなつてね？)

美和 成長したのでー。ふふふ！

先輩 (……なんだよ)

美和 なんでもありませんーーん、ふふ！

じゃあ先輩、私の勝ちなので、一日勉強会、よろしくです。

先輩 (あいよ、都合がいい日あとで教えろよ)

美和 私決めていいんですか？

先輩 (いいよ別に)

美和 お部屋の掃除間に合います？

先輩 (……なんで自然にお前が来る流れになつてんだよ)

美和 あれ、先輩、女の子の部屋に入るの期待してました？

残念ですけど私の部屋、下着とか落ちてませんよ？

先輩 (あのなーーー)

美和 別に私の家でもいいですけど。

超勘違いした親に変な気を遣われてもよければ。

先輩 (……俺んちでいいよ。)

美和 きまりーーー！

あ、ベットの下はチェックするので隠しておいたほうがいいですよ？

先輩 (何をだよーーー)

美和 後輩ものとか出てきたら、さすがの私も先輩との付き合い方を考えるので……。

先輩 (やつぱくんなお前)

(位置：近づいて)

美和 うそそそ、ごめんなさい！ 後輩ものでも受け止めますから！

先輩 (そこじやねえだろー)

美和 あれ、違いました？

先輩 （……はあ）

（顔..マイク）

美和 じゃあ、一週間後の土曜日でどうですか。

先輩 （はいよ、確認しとく）

美和 よろしくお願ひします！！

先輩 （言つとくけど、勉強会だからな）

美和 もちろん、約束はちゃんと守りますよ。

よろしくお願ひしますね！

■ 勉強会

(机を挟んで、向かい合って座っている)

(位置..正面)

(顔..マイク)

美和 先輩。

先輩 (……)

(顔..近づけて)

美和 せんぱーい。

先輩 (……)

美和 めっちゃ集中してますね。

先輩 (……)

(顔..オンマイク)

美和 先輩って、結構まつげ長いですよね。

先輩 (俺じやなくて参考書見ろ)

美和 今は先輩の顔の勉強中でーす。

先輩 (……)

(顔..近づけて)

美和 喋らないとイケメンですね。

先輩 (飽きたのか)

美和 飽きました。

先輩 (はあ、こんなことだと思ったよ。)

(顔..マイク)

美和

私的には1時間集中するとかすごいことなんんですけど、褒めてください。

先輩

(たしかに思ったよりは静かだった)

美和

やればできるんです。

先輩

(いつもこうなら更に良いな)

美和

いつもは無理。

先輩

(即答かよ……)

美和

(顔..オンマイク)

美和

ご休憩いかがですか。

先輩

(はあ……)

美和

ちょっとだけ！

先輩

(わかつたよ)

先輩

(ありがとうございます)

(顔..マイク)

美和

やつたー！ はい、飴あげます。

先輩

(ありがとうございます)

(美和、足を崩してくつろぐ)

(顔..離れて)

美和

先輩、いつもこの調子で勉強してるとんですか？

先輩

(ん？ まあ、そうだな。気にしたことないけど)

美和

最近は？ 一日中？

先輩

(昼飯食つたりはするけど。そうだな)

美和 何時間くらい?

先輩（んーー、8時間位？）

8時間つて労働じやんそれ！

先輩
(学生は勉強が仕事だろ)

卷之二

先輩（じやあ受験は無理だな）

美和

先輩（悔しがんなくともいいだろ、お前は）

卷之三

……決めてませんけど
シニレテハソカリの美和です

先輩（……無理して難しいこと言うなよ、間違ってるから意味）

美和 はーい、失礼しましたー。
(美和、寝転がる)

（ま、ほんとにその気になつたら、一時間くらいでへばつてちやダメだな）

(頬…十分離れて)

美和 そうと決めたらやつてみせますよ、私の根性なめないでください。

先輩（そうだな、それは知つてたわ）

美和
……先輩、東京の大学を目指してゐんでしたつけ。

先輩 (うん。あ、そういうえば言つてなかつたつけ。)

美和 直接は聞いてないですね。

先輩 (誰に聞いたんだよ)

美和 私の情報網なめないでください。

先輩 (こわ。……そうだよ、東京。)

美和 なんて大学ですか？

先輩 (お前、聞いてもわからんだろ)

美和 わかんないですけど、名前くらい教えてくれてもいいじゃないですか。

先輩 (早稲田)

美和 聞いたことある。

先輩 (有名だからな)

美和 有名だから行くんですか？

先輩 (俺のやりたいことやるためにだよ)

美和 そこにいけば夢に近づける？

先輩 (そんな感じ)

美和 ふーん……そななんだ。

先輩 (そういうお前は最近どうよ)

美和 特になんてことない日々を送っておりますが。

先輩 (休憩終わるぞ、拗ねてると)

(美和、起き上がり近づいてくる)

(顔..マイク)

美和 あ、明日水着買いに行くんです、友達と。

先輩 (……へー。)

美和 今絶対に想像しましたよね?

先輩 (いや)

美和 先生怒らないから言いなさい。

先輩 (いつから俺の先生になつたんだよ)

美和 見たいですか? 見たいですよねー? 残念だなー。先輩は勉強で忙しくてプールとか海とか行けないんだもんない。

先輩 (女子ってどうして、水着毎年代えるんだ? そんなに着ないだろ)

美和 それ本気で言つてます?

先輩 (……なんか変なこと言つたか?)

美和 ふつ

先輩 (今、鼻で笑つたろ!)

美和 いえ、なんでもないです、童貞だなーって思つただけです。

先輩 (おい!ー)

美和 先輩が女心を理解するにはまだ時間かかりそうですね。ふふ。

先輩 (悪かったな……)

美和 女心は置いといて、普通にサイズ変わっちゃつたりしますからね。

先輩 (……へー)

美和 中学の時は全然だつたのに、今になつてめつちや成長した子とかいるし。

先輩 (ほう?)

美和 サイズ聞いたことないけど、すごいんです。
たぶんEか、もしかしたらFくらいあるかも。

先輩 (高一でFってやばくね?)

美和 竜貞先輩は知らないと思いますけど、
バストのサイズってただの胸囲じやないんですよ。

先輩 (え、 そんなの?)

美和 ツップとアンダーの差なんですけど……まあ、簡単に言うと
ふくよかな子は見た目よりサイズが小さく感じるし、
痩せてるけど胸がある子は逆に大きくなつたりしますね。

先輩 (同じFでもボリュームが違うつてこと?)

美和 ですね、ざつくりいうと。ちなみにその子は痩せてて
超スタイルいいんですよ。うらやましいー

先輩 (ふーん……)

先輩 (顔..近づけて)

美和 ……つてか先輩、さつきからやけに食いつきますよね?

先輩 (ん? そうだった?)

美和 明らかにテンション上がりますよね？

先輩 (そうか？)

美和 目の前に私がいるのに、FカップJKの想像するんだ。ふーん。

先輩 (いや、想像とか、俺そいつの顔も知らないし。)

美和 ばしこです。

先輩 (え、石橋、茜？)

(顔..マイク)

美和 そう、走り高跳びしてた石橋茜です。

先輩 (まじか……あいつそんなにでかくなつたのか。)

美和 そうです、胸がなくともモテたのに、胸がでっかくなつて超モテてます。

先輩 (たしかにそりゃモテるわ)

(音..テーブルを叩く)

美和 なんで納得するんですか！！

先輩 (え！？ お前に賛同しただけじゃん！？)

美和 ばしこの水着想像してるでしょ！ 絶対してる！！

先輩 (してない！ 水着はしてない！)

美和 水着はしてないって、じゃあ何想像したの！

(音..腕を叩かれた音)

先輩 (いた！！ 暴力反対！！)

(顔..少し離れて)

美和 はーー……ないわーー……

先輩（え、なに、怒つてんの？）

ほんつと胸大きい子好きですよね。

先輩 (んーーー、 そう、 かなあ
……?)

美和
变状态。

三三三

卷之三

美和 はあ――――!?

先輩
(元
?)

卷之二

美和 ……今一番言つちやいけないこと言いましたよね

先輩（あーー……まじ？）

美和 言った。 言いました。 それはマジでない。

先輩 (なかつた……?)

美和
ない。

先輩
(……ごめん)

美和

普通に失礼じゃないですか？ 確かに、付き合ってはいけないんですけど。
私が先輩のこと、いいなーって思つてることくらい、

童貞の先輩でもさすがにわかりますよね？

むしろ童貞は目が合つただけで、あいつ俺に惚れてるぜ！ って
思うんですね？ ジヤあこんなにくつづいてくる私はもう
完全に惚れてるって話になりませんか？

そこんとこどうなんですか？

先輩

(いやー……)

美和

いいです、言わなくていいです。

とにかく、明らかに自分に気がありそうな子の前で、
他の子のエッチな姿想像したり。

お前は彼女じゃないんだから関係ないだろとか、それはさすがにないでしょ！

先輩

(い、石橋のエロいところは想像してないぞ……?)

先輩

(顔..近づけて)

美和

そういう問題じゃない！！

先輩

(ごめん、まじでごめんて！)

(顔..離れる)

美和

はー。帰ろっかな。邪魔ですよね私。

先輩

(いや、今日は、邪魔とかそういう日じゃないだろ……)

(十分に間を取つて)

美和

問題です。私はどうしたら機嫌が直るでしょうか。
ちなみに謝るだけはダメです。

先輩

(……わかった、こうしよう)

美和

はい、なんでしょう。

先輩

(もう一日、……いや、半日で勘弁してくれ。お前に付き合う)

美和

言質とりましたよ。半日私に付き合ってくれる。それで?

先輩

(何するかは、美和に任せるから、なんか好きなこと。付き合うよ)

美和

じゃあプール。

先輩

(それ以外にしない?)

美和

なんでもいいって言つたじやん!

先輩

(いや、お互いのためだつて!

この感じだと、俺が他の女見たら、お前怒るだろ!?)

美和

この後に及んで、他の女に目移りする宣言ですか!?

先輩

(いやいやいや、いっぱいいるだろ、プールに行つたら! 視界に入るから!
不可抗力!)

美和

……まあ、さすがに見るなっていうのは無理がありますね。

先輩

(だろ?)

美和

はい、プールサイドで先輩ボコボコにする自信あるんで他にしましょう。

先輩

(こわ……)

(十分間を取つて)
(顔・近づけて)

美和

……じゃあ、花火。

先輩

(花火、か)

美和

遠出とかは、半日じゃ無理だから、公園でいいです。いつもの。

先輩 (わかった、それなら全然OK)

美和 ……ふふ。

先輩 (……機嫌直った?)

(顔..マイク)

美和 どうですかね、とりあえず今日は夕方までいます。

先輩 (どうぞご自由に。)

美和 寛大な後輩に感謝してくださいね?

先輩 (そうします)

美和 素直でよろしい!

先輩 (じゃあ、そろそろ再開するぞ勉強)

美和 はーい! あ、先に花火の日、決めちゃいません?
ふふふ!

■公園での待ち合わせ

(ベンチに座っている先輩、やつてきた美和、特に立っている)

(位置..正面)

(顔..十分離れて)

美和 おまたせしました。

先輩 (お……)

(顔..離れて)

美和 反応薄い。

先輩 (いや、あー、そう来たか、と思って)

(美和、ベンチに座る)

(位置..横)

(顔..前方)

美和 そうですね、一瞬でも先輩に期待した自分を呪います。

先輩 (そこまで言わなくともよくない?)

(顔..マイク)

美和 浴衣じゃないのは、さすがに咎めません。

でも、せめて少しほおしやれしてきてほしかったです。

先輩 (それは、なんかごめん)

美和 ……いくら家近いからって、ジャージできます?

先輩 (ごめん、お前の気合を考慮るべきだった)

美和 反省はしてくれてるみたいなんで、許します。けど。

先輩 (なんだよ、ジュース?)

美和 奢れば機嫌が直る女みたいな認識やめてもらつていいです?

先輩 (すまん)

美和 いらない気を遣う前に、私に言うことがありますよね?

先輩 (……先日は失礼いたしました)

美和 それ、本気で先輩がばしこのエッチなとこ想像してた
みたいになるのでやめませんか。ガチめに凹むんですけど。

先輩 (俺はなんて言えばいいんだよ)

(顔..近づけて)

美和 浴衣の感想!! なんで一番最初にそれ言えないんですか!?

先輩 (なんかデジヤブだな、このやり取り……)

美和 ごまかさない! なんで同じ失敗繰り返してるんですか? アホなんですか?

先輩 (アホいうな!)

(顔..少し離れて)

美和 ……いくじなし……

先輩 (なに?)

(顔..マイク)

美和 なんでもないです。とりあえず何でもいいので、
わざわざ浴衣を着てきた私に労いも兼ねて一言どうぞ。はい、3、2、1!

先輩 (ジャージで着てすまん)

美和 ……5点。

先輩 (……10点満点中?)

美和 100点満点中に決まってるでしょ！！ はあ、もういいです。
なんか疲れたんで座りましょ。

先輩 (……)

(顔..前方)

美和 暗くなるまでしりとりでもします？

先輩 (それマジで暇なやつが言うことだぞ)

美和 先輩のせいですがご自覚ありますか？

先輩 (俺のせいか……)

美和 どう見てもそうでしょ。

先輩 (花火見る?)

美和 見る。

先輩 (はい)

(顔..マイク)

美和 先に聞いときますけど、自信のほどは？

先輩 (どういう意味だよ)

美和 女子との花火で、買い出し任せられたんですよ？

ちゃんと雰囲気とか流れとか考えるでしょ普通。

先輩 (そういうもんか？)

美和 これで、吹き上がる系ばかりだつたらマジで戦争ですかね。

先輩 (浴衣でか？)

美和

浴衣の私に遠慮して先輩にドラゴン花火ぶん投げますから。

先輩

(マジでやりそな目だなおい)

(音：ビニール袋をがさがさする)

美和

……あ、ほんとにあるしドラゴン花火。

先輩

(女子ってそれみてきやーって言わないつけ)

美和

……先輩の花火って、小学生時代の淡い夏の思い出とかで止まっています?
もしかして。

先輩

(お前、部活の合宿できやーー！って言つてたろ！)

美和

……そう、でしたつけ。

先輩

(言つてたわ。そこで俺に抱きついてきたわ)

美和

……はは、そうでしたね、思い出しました。

先輩

(忘れてたのか?)

美和

いえ、先輩、よく部活の合宿のことなんて覚えてたなーって。

先輩

(たつた三年前だろ)

美和

じゃあ、肝試しで私と一緒だったのも?

先輩

(……あのさ、もう時効だと思うから答えろよ)

美和

……はい。

先輩

(お前、くじ細工したろ)

美和

しました。

先輩 (即答かよ!)

美和 なんでわかつたんですか?

先輩 (……今思い出すと、疑わしいことがたくさんあるんだよ)

美和 先輩、記憶力いいですよね。

先輩 (お前よりはあると思う)

美和 ……花火選びは百点です。

先輩 (そうか)

美和 はい。これで浴衣の感想の分はキャラにしてあげます。

先輩 (そりやどうも)

(顔..前方)

美和 ……晴れてよかつたなあ。

先輩 (降つたらまた別日にすりやよかつたろ)

美和 ……おばあちゃんちにいくんです。しばらく戻つてこないから。

先輩 (そうだったんだ。)

美和 だから、これが私の夏休みの最後の思い出です。

先輩 (さすがにそれは言いすぎじゃね?)

(顔..マイク)

美和 そこは。最高の思い出にしてやるよ、でしょ!

先輩 (なんでだよ……)

美和

ふふ、冗談です。冗談。

先輩

(.....)

美和

さ、やりましょ！ 何からやりますか？

(花火の順番と大筋に沿いながらアドリブ)

次とれにしよがかな……

先輩さつきやつてた、色変わるやつどれ？

美和
長めのやつがいいなー。

ああ
たしかに
少薬かいてはいい方でそこのはすれはいいのか

（音…花火を持つて、マイクの周りを回る動き）

美和 ドラゴン花火ります？

あー、手に持つてドヤつてる男子いましたわ

美田（ミタ）花（ハナ）

はははは、女子つ

でも今、結構普通に声出ました、ははは。

えふたつ一緒にやりましょうよ。あせりのでつけます？

あ、先輩の分も。ドラゴンは？ あ、もう置いてます？

ついたついた！

うける、なんか笑えてきますよね、ほほ

はあ、笑つた。

なんか静かなやつにしよ。もうないですよねドレゴン。あと一個あるのー？　じゃあそれ先輩に投げようかな。

嘘ですよーー、ははは！ ……あー、あとちょっとしかないやー……

■線香花火

美和 見えます？ うん、そっち持つ方です。

先輩 (これいつもつける方わかんなくなるよな)

美和 わかる、紛らわしいですよね。

先輩 (まとめてつけるバカいたよな)

美和 いたー。あれは線香花火への冒流ですよ。

先輩 (それは賛成だわ)

美和 まだあります？

先輩 (ちょうどラス2かな)

美和 はーーーこれで終わりかーーー

先輩 (ほい)

美和 先輩、落ちないようにしてくださいよ。

先輩 (受験生にそういうこというのやめろ)

美和 最後、集中してやりますか。

先輩 (そうだな)

美和 せーのでいきましょ。

先輩 セーの。

(音・線香花火)

美和 ……終わっちゃった。私の夏が。

なんて。ははは……。

■ 実家へ向かう車の中

(車内、美和は後部座席に座っている)

(位置…後ろ)

(顔…十分離れて)

母 (楽しかった?)

美和 うん。

母 (浴衣、どうだった?)

美和 何も言ってくれなかつた。

母 (あら、そうなの)

美和 いつももそう。制服のときも、なかなか褒めてくれなかつたし。

母 (男の子なんてそんなもんよ。恥ずかしいのよ、そういうの)

美和 先輩の場合は意氣地なしなだけ。

母 (ふふ……。)

美和 ……でも、やっぱり優しいんだ。

母 (そうなの?)

美和 花火、準備してくれたの。

でね……覚えててくれたの。昔のこと。

母 (昔のことって?)

美和 中学校のときの、陸上の合宿でさ。先輩と花火したの。

そのとき一緒にしたやつ、全部、覚えててくれた。

先輩

(すごいね)

すごい。私だって忘れてたのに。
今日した花火、全部、おんなんじだつた……。

母 (よかつたの、おばあちゃんのお家)

美和 ……いいよ、家にいても、別にすることないし。

母 (先輩はいいの?)

美和 ……今日で最後。先輩は受験勉強で忙しいところを、
無理して時間作ってくれたんだから。これ以上は無理。

母 (そこは引くのね?)

美和 ……当たり前じやん。私の勝手で、先輩の邪魔、したくない。

母 (……)

美和 先輩は、将来の夢があつて、それに向かつて頑張つてるの。

私がへらへら、邪魔なんて絶対にできない。

母 (そこまで思つてるなら、我慢できそうだけど)

美和 無理。

……近くにいたら、会いに行つちやいそうだから。

母 (恋は難儀ねえ)

(十分間をとつて)

美和 ……お母さん、大学行きたって言つたらどうする?

母 (……先輩を追いかけて?)

美和 ……

母 (何度も言つてるけど、あなたを一人で遠くには行かせたくないの)

美和 18になつたら、もう、大人だよ。自由にしたいんだけど。

母 (あなたの一人暮らしを十分に支援してあげられるほど、うちは裕福じやない)

美和 それは、私が働けばいいだけじゃん。

母 (大学には何しにいくの？ 勉強するためでしよう？

生活のために働きながらなんてしてたら、満足に勉強なんてできないわ。)

美和 大学生がバイトするのなんて普通じゃん！

母 (それは遊ぶお金でしよう？ 私が言つているのは生活費。家賃に食費、

あとは奨学金。わかる？ 全部一人で稼げるの？)

美和 ……なんにもしてくれないんだ。

母 (そもそも私は出ていってほしくないっていつてるでしょ)

美和 お母さんは……この街でくすぶつてる私を見て満足なの！？

母 (そんなのわからないじやない、ここは悪いところじやない)

美和 外に出たことないくせに、そんなの思考停止じゃん！

母 (あなたより何十年も長くここにいるから言えるのよ。
あなたはまだ15年しかここにいないんでしよう？)

美和 私は……私の欲しいものはここにはないの！

母 (じゃあ、美和の欲しいもの、言つてみなさい)

美和 それは……

母 (先輩、意外に何かあるの?)

美和

…

母 (美和の恋を邪魔したいわけじゃない。美和には幸せになつてほしいもの)

美和 ……じゃあいいじやん…

母 (よくないの。私は美和より長く生きてるからわかる。

人生、思い通りにいかないこともある。失うこともたくさんあるってこと。)

美和 始まる前から決めつけないでよ…!

母 (美和の人生は、今だけじゃないわ)

美和 お母さん…!

母 (……心配なの。わかつて。私はもう、私の手の届かないところで、失いたくないの)

美和 ……その言い方は、ズルいじやん…

母 (本音よ)

美和 ……あ。

母 (美和?)

美和 ごめん、電話出るから。静かにしてて。

■電話

(先輩と電話をしている)

(位置…正面・最後まで)

(顔…オンマイク・最後まで)

美和 ……もしもし?

先輩 (もしもし)

美和 どうしたんですか? 何か、ありました?

先輩 (いや、なんもないけど)

美和 用もないのに……珍しいですね。ってか、電話とかかけてくれたことありましたっけ?

先輩 (ないかもな)

美和 私の声、聞きたくなっちゃったんですか? さつきまで一緒だったのに。まさか私に惚れちゃいました?

先輩 (ちげーよ)

美和 そこは乗ってくれてもいいのに。

先輩 (……もう向ってんのか?)

美和 はい。今、高速です。

先輩 (まさか今日だとは思わなかつたよ)

美和 明日からお盆だから、今日のうちにって、お母さんが。

先輩 (バタバタさせてなんか悪かつたな)

美和 いいんです。先輩、模試とかあつたし、今日しかなかつたから。

先輩 (……晴れて、よかつたな)

美和 はい、晴れてよかつたです。

先輩 (遊ぶところとか、あるのか?)

美和 ないですよ。山と田んぼしかないです。

先輩 (親に来いって言われたのか?)

美和 そういうわけじゃないんですけど。まあ、友達との約束も大体済んだんで。特にやることもないから、いいかなーって。

先輩 (そんな感じか)

美和 はい。そんな感じです。

先輩 (……付き合つてやれなくて悪いな)

美和 え……。はは、どういう風の吹き回しですか?

先輩 (いや、まあ、俺に余裕があつたらもう何日かくらいは暇つぶしに付き合えたかなーって)

美和 そんな気、あつたんですか?

先輩 (なんつーか、今日、ちょっと様子変だつたからさ。実家、行きたくないのかなって)

美和 ……気にしてくれてたんですね。

先輩 (まあな)

美和 大丈夫ですよ、行くつて言つたの、私だし。

何もないけど、別にそんなに嫌いじゃないんですよ、おばあちゃんのこと。

先輩
(そうか、ならないんだけど)

美和
……今日、ありがとうございました。

先輩
(こちらこそ、ジャージで失礼しました)

美和
だいぶ気にしてますね。

先輩
(浴衣を前にしたら、さすがにそうなるだろ)

美和
浴衣、どうでした？

先輩
(ん？ ああ……なんか雰囲気違つて、うん。びっくりした)

美和
……びっくりしたんだ、ふふ。

先輩、夏祭り行くんですか？

先輩
(ああ、誘われたけど行かないよ。勉強ですわ)

美和
そんなに根詰めて、死にません？

先輩
(死なねーよ)

美和
……おばあちゃんのお家のほうは、お盆に花火が上がるんです。

先輩
綺麗なんですよ。

先輩
(そうなんだ。花火かー。今年は見ずに終わりそうだな)

美和
そうなんですね、受験って大変だな。

先輩
(俺がそうしてるだけだよ、遊んでるやつは遊んでるし)

美和
先輩は、なんでそんなに頑張れるんですか？

先輩

(別に。後悔したくないだけ。だから今は全力。)

美和

後悔したくないだけ、か……。

先輩

(どうかした?)

美和

先輩のくせに、無駄にかつこいいなって思つただけです。

先輩

(無駄にってなんだよ)

美和

そのままの意味ですよ、ふふ。

先輩

(……ま、あれだ。引き続き、良い夏休みを)

美和

はい、ゆっくりさせていただきます。

先輩

(うす、じゃあまた始業式に)

美和

……始業式?

先輩

(どうせ、また迎えに来るんだろう?)

美和

……!

先輩

(はあ……。新学期もまた毎日お前の顔を見るわけだな)

美和

はい、もちろん。迎えに行きます!

先輩

(今のうちに一人の時間を満喫するわ)

美和

そうしてください。新学期になつたらまた、毎日一緒にすから。

先輩

(言い方……)

美和

ふふ! ……あの、電話、ありがとうございます。

先輩 (ん？ ああ)

美和 じゃあ、そろそろ、切れますね。
(おうよ)

美和 明日も、頑張ってくださいね。

先輩 (うん、ありがと)

美和 じゃあ……おやすみなさい、先輩。